

有栖山公園通信

其乃貳拾

平成貳拾年八月十七日 (コミックマーケット74)

有栖山公園 (<http://www.aliceyama.jp/>)

有栖山 葡萄酒 (budou@aliceyama.jp)

有栖山公園は「かもぞじゃパン」を応援しています 

はじめまして&おひさしぶり、本日は御立寄りいただきありがとうございます。

「有栖山 葡萄酒」と申します、しがない二次創作小説書き同人屋にございます。

新作「君につたえるコトバ」いかがでしたでしょうか。遙の闇が足りないとか、水月が幸せになってるなんて有栖山じゃないとか、諸々の意見があるでしょうが今回はこんな作品。ラストのプロポーズシーンを書きただけです、はい。作者が人生疲れてきているのか、世間一般的な普通な幸せを求めているのかもしれない。恋愛は3人以上ですもんなんですけどねえ……あ、作品の話ですよ？

さて次回冬コミで「君望 NovelSeries」もついに10作目！！ やはりこういう記念的な号はいつも以上の内容と装丁をやってみたいなあと思う同人者、気合い入れて新作に取り組みたいと思います。前からやりたかった箔押しとか特殊紙表紙とかフルカラーイラストとか…… 夢だけ広がってます、はい。本文はいつも通りしっかりと、シリアスな内容で行くと思います。具体的に言うと、処女作「夢幻」の完全加筆改訂版です。

しかしペーパーが20号って事はどれだけ新作落としてるんだらうって話がありますよね、ごめんさい。

次回イベントは、ヤンデレオンリー「病み鍋 PARTY 3」(08/11/03 川崎市産業振興会館)に参加予定です。ヤンデレ合同誌4の制作も脳内決定しており、またおもしろい作品を皆様にお届けできると思います。School Daysの新作はどうなるかなあ、たぶん無理かなあ、やっぱり難しい…… 脳内に住んでいた言葉様がどこか遠い場所にヨットで旅立ってしまったのかもしれない。かなしみの～むこうへ～♪

それでは、またどこかでお会いしましょう。

2008年葉月 有栖山葡萄酒

『たど世界がらくても夢があるでしよいろいろと♪』
水月に買い物に行こうと言われ、二人で出かけたショッピンモール。最後に向かった食品売り場の入り口脇で、女の子がニンジンの着ぐるみ姿で歌ってワゴンセールをしていた。丸く覗いた顔はかわいい娘なんだけど、全体的に妙な違和感を感じてよく見ると、その着ぐるみは七色をしていた。
「ねえね孝之見てっ、新品种七色ニンジンだっ」
水月が嬉しそうに手に取り突き出してきたニンジンを見て、俺は引きつった。ニンジンはオレンジか赤と相場は決まっている。だけど目の前に突き出されたそれは商品名そのままに、紫青緑黄色オレンジ赤と七色にグラデーションしている。正直こいつを食物と見るのはちょっと抵抗を感じる。カラフルならいつてもんでもないだろ？
ところが世の中わからないもので、俺の勤めるスカイテンブルで『レインボーキャロットフェア』なるものが行われたりしたのだが、それは後の話なのでまた別の機会に話そう。
で、そのニンジン。
「七色の人参ってなんか幸せになれそうじゃない？ 七色の虹だっって幸運の架け橋っていうくらいだし」
とまあ水月が嬉しそうにカゴに入れるので、買うのを止めはしなかった。虹は蛇とつながって不吉な象徴としての地域もあるらしいけど、そんな無粋な突っ込みをするくらいなら水月の言うとおりの考えのままがいいかもしれない。
「ありがとうございますっ♪ 初めて売れた……」
最後の方は聞かなかったことにしながら、俺たちは店内に入っていく。
水月はカゴにじゃが芋、骨付きの鶏肉……と、ある料理をつくったときの材料を買い込んでいく。
「ねえ孝之」
「なんだ？」

生鮮売り場から移動して、島什器の通路を確認しながら俺に声をかけてきた。
「この間作ってくれたカレー。孝之が作ってくれたのは嬉しかったんだけど、まだ辛さが足りないのよ」
俺は軽くめまいを起こした。
「なに？ 店で売ってる奴で一番辛そうな『インド人も瞬殺!! 激辛メルトダウンカレー!!!』って、やたらーをつかった頭の悪そうなネーミングのルーを使っただぞ？ 瞬殺だぞ？」
「あー、あれね。あれはまだまだお子様向けの辛さよ。私のお気に入りには『人類滅亡!!! 超時空スパイス 嵐カレー!!!!!!』ってやつなの。これは凄いわよ、口に入れた瞬間に意識が一瞬白く飛ぶのっ」
あれをお子様向けと呼ぶのか、それすら食えない俺は一体何だ。それに、人類滅亡ってなんだよ、超時空ってどんなスケールなんだよ。意識飛ぶって、食物として既におかしいだろ。
「そんなもん、危なくて食べるかっ！」
「すっごく気持ちいいのに」
「その商品開発には、なにか大きな間違いがあるって指摘する奴は居ないのか」
気持ちいいって言う水月もどうかと思うが、そんな劇物を売ってるメーカーは問題あると思うぞ。
「このお店にね、その上位ランクの『炭素系生物消滅!!!!!!』ハイクでコトコト煮込んだBETAカレー!!!!!!」って商品が置いてるから、孝之に作ってあげようと思っ」
「良くわからない上に、既にカレーの商品名じゃねえだろそれっ。大体、辛い駄目な俺が食べるはずがないだろっ!!」
味噌が死ぬとか言うレベルじゃない、俺自身の生命の危機を感じる。
「大丈夫。食べてるうちに、絶対気持ちよくなってくるから」
いやそれはない、絶対無い。本当の意味での昇天だ。
「カレーもエスニックも美味しいのよ、スパイス天国なんだよ。結婚したら孝之にもスパイスの素晴らしさを教えてあげるから。刺激あるスパイシーな人生よっ」
そんな刺激はいらない、もっと普通でいいから。
「俺、結婚きめたの間違いだったかもしれない」

